



山重っ子

校訓「やさしく かしこく たくましく」



子どもに見せたい親の背中！

校長 川崎 正

春の到来が待ち遠しいこの頃ですが、2月4日は「立春」、暦の上では春でした。前日の2月3日は「節分」で、新しい春を迎える前に邪気（鬼）を払い、幸福を呼び込み、1年の無病息災を願うこととなります。豆まきをされたご家庭も多かったのではないのでしょうか。

ところで、「親の背を見て子は育つ」ということわざがあります。このことわざは、「子は親を映す鏡」と同じと見なされています。子どもの感性は鋭く、親のことをよく見ています。子どもは、親が「何を言ったのか」ではなく、毎日の生活の中で、親が「どんな行動をしているのか」を見つめています。そして、それが当たり前だと思い、同じような行動をとるようになります。親がいくら子どもに立派な言葉をかけても、親の日々の生活がいい加減なものであれば、何の説得力ももたないということです。例えば、自分は読書をしないでゲームばかりしているのに、子どもに「ゲームばかりしないで、本を読みなさい」という言葉をかけても意味がなく、親自身が本を読む姿を子どもに見せることが一番だということです。このことは、親が子どもの成長に深く関わっているともしえます。そして、それは、私たち教職員にも同じことがいえます。子どもたちが健やかに成長するためにも、周りの大人の行動が、背中を見せることが重要だということです。子どもに接するすべての大人が、自信を持って子どもたちに自分の背中を見せたいものです。

最後にご存じの方も多いと思いますが、世界中でミリオンセラーになった「子どもが育つ魔法の言葉」（1998年刊・アメリカ）の著者ドロシー・ロー・ノルド博士の詩『子は親の鏡』を紹介します。

子は親の鏡

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

山重小HP QRコード



